

科目名	医療英語			コード			
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	2年生	単位数	1単位	時間数	15時間
使用教科書	知念クリティーン著：やさしい看護英会話			出版社	医学書院		
授業のねらい	看護師は患者やその家族だけでなく、他の職種とも、多様な形でコミュニケーションを図ることが必要であり、グローバル化に伴い多国籍の人々と英語でコミュニケーションを行なう必要も出てくるのが想定される。国籍問わず、すべての人に公平かつ正しく理解たうえで治療を受けていただくための説明と同意が求められてくるのが想定される。グローバルヘルスの課題解決に向けて、医療現場に必要なコミュニケーション能力の基礎力をつける。						
到達目標	日常生活や医療現場で英語によるコミュニケーションが取れる力を身に付ける。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	・ 血液検査・バイタルサインと心電図の名称と、その時の説明会話方法	講義
2	・ 内視鏡・超音波・X線・磁気共鳴画像の名称と、その時の説明会話方法 ・ 生検・点滴静脈注射・人工呼吸器・血液透析の名称と、その時の説明会話方法	
3	・ 理学療法・作業療法・食事療法・薬物療法の名称と、その時の説明会話方法	
4	事例で検査・処置の説明をする	
5	診療記録から対象の状況・状態を知る	
6	1. 事例に応じた対応を会話する	
7	2. 場面に応じた対応を会話する	
8	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	家族社会学			コード			
領域		対象学年	2年生	単位数	1単位	時間数	15時間
使用教科書	なし（適宜資料配布）			出版社			
	副教材：よくわかる現代家族（第2版）				ミネルヴァ書房		
授業の狙い	結婚・恋愛、子育て、高齢者支援、若者の生活や働き方など、家族関係に関する主要なトピックを取り上げながら、今日の家族を社会的側面から理解するための方法を身につけ、将来の家族のあり方について想像する力を養う。						
到達目標	家族の現状と課題を理解し、社会学的な視点でものを考えることができる。						
評価基準	筆記試験 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	家族とは？／「漂流」する日本の家族	講義
2	「婚難」な時代／結婚は幸せへのパスポートか？	
3	ジェンダー平等と性の多様性	
4	現代の若者と相対的貧困	
5	ワークライフバランスと働き方改革	
6	進まない子育て支援	
7	高齢者支援と家族介護	
8	終講試験	

科目名	ケアリング			コード			
領域	人間の生活・社会の理解	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	ケアの本質			出版社	ゆみる出版		
	ミルトン・メイヤロフ著						
授業の狙い	看護実践の中核となるケアリングの概念を理解し、ケアリングについて理解を深める。相互関係によって成長発達を遂げることを体験し学習する						
到達目標	対象との相互的な関わりを通して人間的をもたらすことを理解できる						
評価基準	筆記50% レポート課題50%						

回	講義内容	教授方法等
1	ケアリング概論① ・ケアとケアリングの違い ・他者の成長を助けることとしてのケア ・ケアの要素・ケアの特質	講義
2	ケアリング概論② ・人をケアすることの特殊な側面 ・ケアの価値	講義
3	エステティック概論 ・エステティックとソワンエステティックの語源 ・ソワンエステティックの目的・効果 ・スキンタッチの重要性	講義 演習
4	東洋・西洋におけるセラピー ・定義と技法 ・アロマセラピーの効果	講義 演習
5	アロマセラピー ・精油の効果効能 ・アロマの利用方法	講義 演習
6	アロマオイルによるマッサージ① ・アロマオイルのつくり方 ・フットマッサージの技術と実践	演習
7	アロマオイルによるマッサージ② ・ハンドマッサージの技術と実践	演習
8	ケアリングとしてのエステ技術まとめ 終講試験	講義 筆記試験

科目名	栄養学			コード			
領域	人体の構造と機能	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 別巻			出版社	医学書院		
	栄養食事療法						
授業の狙い	健康にとつての栄養に関する基礎知識、疾病の回復促進する食事療法について学習する						
到達目標	1. 人間の生命を支える栄養素の種類、構造、代謝が理解できる 2. 疾病別、症状別の食事療法の基本について理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	国民の栄養の現状 食生活と食事療法の意義	講義
2	発達段階に応じた栄養管理の基本 妊産婦 小児期 更年期 高齢期	講義
3	栄養評価 1. 食品成分とエネルギー 2. 食事摂取基準	講義
4	臨床栄養 栄養食事療法の総合マネジメント チームケアの実践 (NST)	講義
5	各健康障害と食事療法 1. 一般治療食 2. 糖尿病食 3. 消化器疾患の食事療法	講義
6	4. 腎臓病食 5. 高血圧食 6. 心疾患の食事療法	講義
7	特殊栄養療法 食事指導の実際	講義
8	まとめ・終講試験	

科目名	疾病治療学Ⅴ				コード	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2	単位数	1	時間数 30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1 1】アレルギー-膠原病感染症				出版社	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1 2】皮膚					医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1 3】眼					医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1 4】耳鼻咽喉頭					医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【1 5】歯・口腔					医学書院
	偉人に学ぶはじめての精神医学					医療コミュニケーションセンター
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1					医学書院
授業の狙い	感覚器系、精神、自己免疫系に疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する					
到達目標	1. 感覚器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる 2. 自己免疫に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる 3. 精神疾患に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる					
評価基準	筆記試験					

回	講義内容	教授方法等
1	感覚器系疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 外耳炎 中耳炎 突発性難聴 めまい症 鼻中隔湾曲症	講義
2	感覚器系疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 副鼻腔炎 上顎洞がん 舌癌 扁桃腺炎 咽頭がん 声帯ポリープ 唾液腺疾患	講義
3	感覚器系疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 皮膚がん 緑内障 白内障 老眼 近視 乱視	講義
4	歯科・口腔疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 齲蝕 歯周病 腫瘍	講義
5	歯科・口腔疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 顎関節症 口腔粘膜疾患	講義
6	免疫・アレルギー疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー	講義
7	免疫・アレルギー疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群 レイノー病	講義
8	免疫・アレルギー疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 レイノー病 多発筋炎・皮膚筋炎	講義
9	免疫・アレルギー疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 免疫不全症 自己炎症性症候群	講義
10	精神障害① 主な疾患の病態生理と検査・治療 統合失調症 気分障害 恐怖性不安障害 強迫観念	講義
11	精神障害② 主な疾患の病態生理と検査・治療 心的外傷後ストレス障害 解離性障害 摂食障害	講義
12	精神障害③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 性同一性障害 パーソナリティー障害 認知症 睡眠障害	講義
13	精神障害④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 知的障害 小児自閉症 アスペルガー症候群	講義
14	精神障害⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 多動性障害 チック障害 心身症	講義
15	まとめ・終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～7月

科目名	薬理学			コード			
領域	疾病のなりたちと回復	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 疾病の成り立ちと回復促進【3】			出版社	医学書院		
	薬理学						
授業の狙い	薬理学の基礎知識、薬物とその管理、主な薬物の特徴を理解する						
到達目標	1. 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解できる 2. 主な薬物の特徴について理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	薬理学とは	講義
2	薬理学の基礎知識 体内情報伝達機序 薬の副作用機序 薬物体内動態 薬理作用	講義
3	抗感染症薬 1. 感染症治療に関する基礎事項 2. 抗菌薬 3. 抗真菌薬	講義
4	抗がん薬 1. がん治療に関する基礎事項 2. 抗がん薬各種	講義
5	免疫治療薬 1. 免疫系の基礎知識 2. 免疫基礎知識 3. 免疫増強薬・予防接種薬	講義
6	末梢での神経活動に作用する薬物 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	講義
7	中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬 催眠薬 抗不安薬 抗精神薬 抗うつ薬 抗てんかん薬	講義
8	心臓・血管系に作用する薬 降圧剤 強心薬 利尿薬 血液作用薬	講義
9	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ぜんそく治療薬 潰瘍治療薬	講義
10	物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬	講義
11	皮膚科用薬・眼科用薬	講義
12	緊急の際に使用される薬物	講義
13	漢方薬 消毒薬 輸液製剤・輸血剤	講義
14	看護業務に必要な薬の知識	講義
15	まとめ・終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～5月

科目名	社会福祉				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度 3						
授業の狙い	生活者を支援する社会福祉活動と保健医療福祉の連携、協働の必要性について学習する						
到達目標	1 社会福祉の理念と政策を理解する 2 社会福祉の各分野における問題と主な施策を理解できる 3 社会福祉実践と保健医療福祉の連携について理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	社会福祉の変遷 1. 日本における社会福祉の展望 2. 戦後の社会福祉と福祉改革	講義
2	社会福祉の基本的性格 1. 社会福祉の定義・範囲 2. 社会福祉の思想 3. 社会福祉の構造	講義
3	社会福祉の分野 1. 高齢者福祉	講義
4	2. 障害者福祉 3. 児童家庭福祉	講義
5	社会福祉実践と医療・看護 1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術（ケースワーク）	講義
6	3. 集団援助技術 4. 関節援助技術と関連援助技術	講義
7	5. 社会福祉援助の検討課題 6. 医療・看護との連携	講義
8	まとめ・終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：5月～6月

科目名	健康教育・支援				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度②④						
授業の狙い	健康に生活を送るうえでの保健活動を理解する						
到達目標	保健対策の動向と活動について理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	保健活動 地域保健	講義
2	保健活動 母子保健 学童期の健康管理	講義
3	保健活動 生活習慣病予防	講義
4	保健活動 難病対策	講義
5	保健活動 産業保健 職場の健康管理	講義
6	世界の保健と健康問題 世界保健機関と機能	講義
7	国際保健の課題	講義
8	終講試験	

科目名	医療関係法規				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令						
授業の狙い	医療過誤における看護業務と看護師の法的責任を理解する						
到達目標	1 医療事故における法的責任について理解できる 2 事例をとおり、看護師の業務と法的責任について理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	法の概念 憲法の基本的原理、精神	講義
2	医療関係法規 医事法規 1. 保健師助産師看護師法 医師法 医療法 救急救命士法	講義
3	医療関係法規 医事法規 2. 臓器の移植に関する法律 死産に届出に関する規定 看護師等人材確保に関する法律	講義
4	医療関係法規 医事法規 3. 薬剤師法 診療放射線技師法 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律 理学療法士よび作業療法士法	講義
5	看護と関係法規① 看護業務と対象を守るための法律	講義
6	看護と関係法規② 看護師を守るための法律	講義
7	看護と関係法規③ 看護活動と関係法規 診療補助に伴う事故 療養上の世話業務における事故 チーム医療と看護師の責任 継続看護における患者個人	講義
8	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～5月

科目名	社会保障				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度 3						
授業の狙い	社会保障に関する基礎知識と社会保険制度を理解する						
到達目標	1 社会保障の理念や動向と社会福祉の法制度が理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	社会保障の理念や動向、社会福祉の法制度の理解 1. 保健医療福祉の活動の基本方向 理念・憲法 2 5 条 ノーマライゼーション	講義
2	医療保障① 医療保障制度の変遷 医療保障制度の構造と体系 健康保険と国民健康保険	講義
3	医療保障② 老人保健制度 保険診療の仕組み 公費負担医療 国民医療費 医療制度改革	講義
4	介護保障 介護保険制度創設の背景と介護保険制度の歴史 概要 課題と展望	講義
5	所得保障 所得保障の仕組み 年金保障制度 社会手当 労働保険制度	講義
6	公的保障① 貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護のしくみ	講義
7	公的保証② 低所得対策 近年の動向	講義
8	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～5月

科目名	公衆衛生				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度②						
授業の狙い	公衆衛生に関わる基礎的な概念や理論、公衆衛生上の課題やその対策について学習する						
到達目標	公衆衛生の基礎知識と健康に関連する指標を理解する						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	健康と公衆衛生 公衆衛生の概念 変遷 健康と環境 疫学方法による健康の理解	講義
2	ヘルスプロモーション 高リスクアプローチ 集団アプローチ	講義
3	プライマリーヘルスケア コミュニティパワーメント	講義
4	健康指標と予防 健康に関連した指標	講義
5	地域保健活動と看護職	講義
6	生活環境が健康に及ぼす影響① 地球環境 住環境	講義
7	生活環境が健康に及ぼす影響② 食環境 感染症	講義
8	終講試験	

科目名	レクリエーション論				コード		
領域	健康支援と社会保障	対象学年	2年生	単位数	1	時間数	15
使用教科書	寺山久美子監修「レクリエーション第3版」				出版社	三輪書店	
授業の狙い	コミュニケーションワークのツールとしてのレクリエーションの技法を学び、対象との信頼関係の構築を習得する						
到達目標	各実習先での対象との関係づくり、ケアプランに活用できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	レクリエーションの基本理論 1. 意義 2. 歴史的背景 3. 現代社会における役割 4. 範囲と種類 5. 人の発達段階とレクリエーション	講義
2	レクリエーションの支援理論 1. 支援の目標 2. 理念 3. 支援者の役割 4. 支援の展開の基本 5. 展開方法	講義
3	治療的レクリエーションの技法 1. 集団の意義 2. 作業療法におけるレクリエーションプログラムの立案と展開 3. レクリエーションの実施と活用	講義
4	レクリエーションサービス論 1. 事業の実施 2. 安全対策の基本	講義
5	ホスピタリティー・トレーニング 1. ホスピタリティー・トレーニングの理解と構造 2. ホスピタリティー・トレーニングの実際、共感のアクション 3. アイスブレイキング	講義
6	対象別の実施基本 1. 発達段階にそつての基本 ①小児期 ②青年期 ③成人期 ④老年期	講義
7	2. 状況・場にそつての基本 ①病院 ②老健施設 ③精神機能障害	講義
8	終講試験	

科目名	臨床看護総論			コード	
領域	基礎看護学	対象学年	2学年	単位数	1
使用教科書	専門分野 臨床看護総論 基礎看護学/看護技術プラクティス第4版			出版社	医学書院
	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②/基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③				学研
	ケアに生かす検査値ガイド第2版/看護過程に沿った対症看護				学研
授業の狙い	呼吸・循環を整える技術の基礎知識を理解し、援助の実際を学ぶ。				
到達目標	1.酸素療法の中央配管方式と酸素ボンベによる方法.援助の実際を理解する。2.一時的吸引、胸腔ドレナージ及び吸入の目的.方法.援助の実際を理解する。4.冷電法.温電法の方法.援助の実際を理解し実施する。				
評価基準	出席が総時間数の3分の2以上あること 筆記試験：60% 演習参加状況・技術到達度・記録物:40%				

回	講義内容	教授方法等
1	呼吸器・循環器フィジカルアセスメントの復習・呼吸困難時、循環障害時の援助	講義
2		講義
3	1.酸素療法の基礎知識:①中央配管方式 ②酸素ボンベ-酸素投与方法・援助の実際	講義
4	酸素ボンベの取り扱い・流量計算・鼻カニューレの装着-デモンストレーション・演習	演示・演習
5	2.排痰ケアの基礎知識-援助の実際: ①体位ドレナージ	講義
6	②咳嗽介助.ハフing.スクイーjing ③吸入の援助の基礎知識-超音波ネブライザー ジェットネブライザー ④一時的吸引:口腔・鼻腔内・気管内吸引	講義
7	排痰ケアの援助の実際-デモンストレーション・演習 ①体位ドレナージ ②咳嗽介助・スクイーjing (酸素ボンベ流量計算復習)	演示・演習
8	排痰ケアの援助の実際-デモンストレーション・演習 ③吸入の援助の基礎知識-超音波ネブライザー ジェットネブライザー	演示・演習
9	排痰ケアの援助の実際-デモンストレーション・演習 ④口腔内一時的吸引	演示・演習
10	3.胸腔ドレナージの基礎知識 (1年次の胸腔穿刺復習) 援助の実際-実際の映像視聴	講義
11	体温管理の技術-援助の基礎知識:1.発熱時の援助-冷電法 2.うつ熱時の援助	講義
12	3.低体温時の援助-温電法 抹消循環促進ケアの援助の基礎知識 弾性ストッキング、下腿マッサージ、手動的リンパマッサージ	講義
13	体温管理の技術の実際-氷枕の作成、患者体験 デモンストレーション・演習	演示・演習
14	体温管理の技術の実際-温沈の作成、患者体験 デモンストレーション・演習 科目のまとめ	演示・演習
15	終講試験	筆記試験

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	看護過程				コード		
領域	基礎看護学	対象学年	2学年	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	基礎看護技術 I 基礎看護学②				出版社	医学書院	
授業の狙い	看護過程の考え方とその実際について学び、今後の看護実践における基盤をつくる。						
到達目標	1.看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義がわかる。 2.事例をもとに看護過程のアセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった各段階の基本的な考え方と実際がわかる。						
評価基準	記録提出状況及び内容：60% 筆記試験：40%						

回	講義内容	教授方法等
1	看護過程とは①	講義
2	看護過程とは②	講義
3	基礎看護技術 I 基礎看護学②	講義
4	情報収集 (No.1) の実際-事例ワーク	講義・演習
5	アセスメント (No.2) の実際①-事例ワーク	講義・演習
6	アセスメント (No.2) の実際②-事例ワーク	講義・演習
7	アセスメント (No.2) の実際③-事例ワーク	講義・演習
8	記録提出状況及び内容：60% 筆記試験：40%	講義・演習
9	アセスメント発表会	演習
10	アセスメントのまとめ・関連図 (No.3)	講義・演習
11	看護問題の明確化 (看護診断) (No.4) の実際-事例ワーク	講義・演習
12	看護計画立案 (No.5・7) の実際-事例ワーク	講義・演習
13	看護計画発表会	演習
14	SOAP (No.7) ・まとめ	講義
15	終講試験	筆記試験

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：6月～8月

科目名	与薬の援助技術				コード		
領域	基礎看護学	対象学年	2学年	単位数	1	時間数	30時間
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③				出版社	医学書院	
	看護技術プラクティス 第4版					学研	
	ケアに生かす検査値ガイド					学研	
授業の狙い	1. 与薬の基礎知識について理解し、薬剤の管理方法、正しい与薬方法やその指導の実際を学ぶ。 2. 患者の観察、薬剤の効果、副作用を正しく理解し、アセスメントする力を養う。						
到達目標	1. 正しい与薬のための6R確認やダブルチェックができる。2. 薬の種類、管理方法について理解できる。 3. 与薬方法に応じた援助の基礎知識を理解し、実施できる。4. 薬の効果、副作用を知り、患者へ説明ができる。						
評価基準	出席が総時間数の3分の2以上あること 筆記試験：60% 演習参加状況・技術到達度：30% 記録物:10%						

回	講義内容	教授方法等
1	与薬の意義と看護師の役割 1.与薬の意義 2.与薬の基礎知識 3.看護師の役割	講義
2	与薬時の看護 1.経口与薬 2.吸入 3.点眼 4.点鼻 5.経皮的与薬 6.直腸内与薬	講義・メディア教材視聴
3		
4	経口与薬・外用薬与薬の実際－演習・デモンストレーション	演示・演習・技術確認
5	直腸内与薬の実際－演習・デモンストレーション	演示・演習・技術確認
6	1.注射の基礎知識：①注射方法と種類 2.注射の実施法：①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉内注射 ④静脈内注射 ⑤点滴静脈内注射	講義・メディア教材視聴
7	①注射剤の取り扱い ②注射器と注射針 ③注射剤の準備（アンプル・バイアル）	演示・演習
8	皮下注射の実際－デモンストレーション・演習 1.アンプルからの吸い上げ 2.皮下注射	演示・演習・技術確認
9		
10	筋肉内注射の実際－デモンストレーション・演習 1.バイアルからの吸い上げ 2.筋肉内注射	演示・演習・技術確認
11		
12	静脈内注射の実際－デモンストレーション・演習 1.アンプルおよびバイアルからの吸い上げ 2.静脈内注射	演示・演習・技術確認
13		
14	点滴静脈内注射の輸液の管理・輸血管理・中心静脈カテーテル留置の介助 科目のまとめ	講義
15	終講試験	筆記試験

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤				出版社	医学書院	
	地域在宅看護論②						
授業の狙い	在宅で療養する対象者への看護の提供方法と、日常生活を支える基本的な知識と技術を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と多職種との連携について理解できる。 ・在宅における日常生活援助について基本的な知識と技術を習得することができる。 						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	在宅療養移行期にある療養者と家族への支援 入退院支援・退院時カンファレンス 家族システム理論・意思決定支援	講義
2	ケアマネジメントと多職種連携 介護支援専門員との役割とケアプラン・サービス担当者会議	講義
3	生活の場で提供される看護：訪問看護とは・訪問看護制度と医療保険および介護保険・ 訪問看護サービスの仕組みと利用の流れ・訪問看護の回数の制限と費用	講義
4	生活の場で提供される看護：訪問看護の実際	講義
5	療養者とその家族の生活様式と価値観の尊重とマナー①	演習
6	療養者とその家族の生活様式と価値観の尊重とマナー②	演習
7	訪問看護における観察・情報収集の技術・コミュニケーション	講義
8	日常生活援助技術：食事	講義
9	日常生活援助技術：移動・活動/休息 演習	演習
10	日常生活援助技術：清潔	演習
11	日常生活援助技術：排泄 排便の演習	演習
12	日常生活援助技術：排泄 排便の演習	演習
13	福祉用具展示①	
14	福祉用具展示②	
15	終講試験とまとめ	

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤				出版社	医学書院	
	地域在宅看護論②						
授業の狙い	在宅で療養する多様な健康状態にある人とその家族への基本的な支援の方法を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の発症および再発、悪化を防ぎ、在宅療養を継続するために必要な支援を理解できる。 ・多様な健康状態にある在宅療養者への支援において利用できる法律制度を理解できる。 						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	シナプロジー①	講義・演習
2	シナプロジー②	講義・演習
3	シナプロジー③	講義・演習
4	事例：認知症一人暮らし①	講義
5	事例：認知症一人暮らし②	講義
6	事例：認知症 高齢者夫婦①	講義
7	事例：認知症 高齢者夫婦②	講義
8	事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援① 内服管理	講義
9	事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援②	講義
10	事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援③	講義
11	事例：障害児① ダウン症	講義
12	事例：障害児② ダウン症	講義
13	事例：統合失調症①	講義
14	事例：統合失調症②	講義
15	終講試験とまとめ	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：10月～12月

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤				出版社	医学書院	
	地域在宅看護論②						
授業の狙い	在宅において医療管理を必要とする療養者へとその家族への支援を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で行われる医療管理に対する基本的な知識と技術を習得できる ・医療者がいない環境下でも継続される医療管理における家族への支援と多職種との連携を考えることができる 						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 －療養の場の移行に伴う看護／地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携－	講義
2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	講義
3	事例：COPD① HOT 難病申請	講義
4	事例：COPD② HOT	講義
5	事例：COPD② HOT	講義
6	事例：大腸がん終末期① CVポート 化学療法 膀胱留置カテーテル	事例紹介 グループワーク
7	事例：大腸がん終末期② グループ学習 どのような支援 看護があるのか	グループワーク
8	事例：大腸がん終末期③ グループ学習 どのような支援 看護があるのか	グループワーク
9	事例：大腸がん終末期③ グループ学習 どのような支援 看護があるのか	グループワーク
10	事例：大腸がん終末期④ 発表	発表
11	経管栄養 胃瘻	講義
12	CAPD	講義
13	人工呼吸療法 気管カニューレ 胃瘻・経管栄養	講義
14	災害対応時の看護	講義
15	終講試験とまとめ	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：12月～2月

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅴ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤				出版社		
	地域在宅看護論②					医学書院	
授業の狙い	在宅療養者の置かれている個別的な環境と価値観、ニーズに沿った看護過程の展開を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の価値観を尊重し、自立支援、自律支援、自己決定支援を意識した看護を考えることができる ・家族支援および多職種連携をもって、対象の生活を24時間365日支える看護を考えることができる 						
評価基準	課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	事例 筋委縮性側索硬化症の療養者	事例紹介 講義
2	情報収集	講義
3	アセスメント	講義
4	アセスメント	講義
5	看護問題の抽出	講義
6	優先順位の決定	講義
7	看護計画立案	講義
8	評価修正 記録の提出	講義・まとめ

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	成人看護学方法論 III				コード		
領域	成人看護学	対象学年	2年生	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	系統看護学講座 臨床外科看護学総論				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 臨床外科看護学各論					医学書院	
授業の狙い	手術や外傷を伴うと身体は侵襲をうけ、多様な生体反応がおこる。ここでは、急性期にある対象と家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、特に周手術期にある対象の回復過程について学ぶ。また、クリティカルな状態や周手術期などの非日常的な危機的状況に陥ってしまった対象に対して、危機を回避するための援助方法や看護師の役割について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.急性期にある対象とその家族の特徴を理解できる。 2.侵襲に伴う生体反応の変化について理解できる。 3.周手術期における合併症とその予防のための看護を理解できる。 4.急性期看護における医療チームメンバーの役割・連携について理解できる。 5.事例を通して具体的な看護援助を検討できる。 						
評価基準	終講試験（80％） 課題提出（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	生命の危機状態・急性期にある人の特徴	講義
2	周術期看護①術前（外来・手術前日・当日の準備、術前アセスメント、術後準備）	講義・ナースチャンネル視聴
3	周術期看護②術中（麻酔法、外科的基本手技）	講義・ナースチャンネル視聴
4	周術期看護②術中（看護師の役割、手術開始～終了までの流れ）	講義
5	周術期看護③術後（手術侵襲と生体反応、創傷治癒）	講義
6	周術期看護③術後（全身管理）	講義
7	周術期看護③術後（術後合併症とその予防）	講義・ナースチャンネル視聴
8	低侵襲手術と臓器移植	講義
9	開腹術を受ける患者の看護①（術前）	グループワーク（課題提出）
10	開腹術を受ける患者の看護②（術後）	グループワーク（課題提出）
11	開腹術を受ける患者の看護③（術直後・術後1日目の観察）	演習
12	集中治療を受ける患者の看護	講義
13	救急看護の基礎	講義
14	チーム医療と看護師の役割	講義
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：6月～10月

科目名	成人看護学方法論Ⅳ				コード		
領域	成人看護学	対象学年	2年生	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	1.系統看護学講座 別巻 緩和ケア 2.経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア				出版社	医学書院	
						メジカルフレンド社	
授業の狙い	死にゆく過程の多様性を理解し、終末期にある患者の尊厳と QOL を保ちながら、人生最期の時まで その人らしく生き抜く事を支える看護について学習する。また、生命をおびやかす病に罹患した患者と、その家族が抱える全人的苦痛を軽減するための基本的緩和ケアと、看護の目的や看護師の役割を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者とその家族の特徴と看護を理解できる 2. 緩和ケアを必要とする患者とその家族の特徴と看護を理解できる 3. 臨死期・臨終期にある患者とその家族の特徴と看護を理解できる 4. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義と、多職種連携における看護の持つ専門性を理解できる 5. 事例を通して具体的な看護援助を検討できる 						
評価基準	筆記試験(70%) レポート(30%)						

回	講義内容	教授方法等
1	終末期の理解	講義
2	終末期にある患者と家族の理解	講義
3	終末期医療と看護の理解	講義
4	終末期における日常生活援助	グループワーク
5	緩和ケアとは	講義
6	緩和ケアにおけるチームアプローチと看護師の役割	講義
7	①全人的ケアの実践 身体的苦痛	講義
8	②全人的ケアの実践 社会的苦痛	講義
9	③全人的ケアの実践 精神的苦痛	講義
10	④全人的ケアの実践 スピリチュアルケア	講義
11	ライフサイクルや様々な疾患への緩和ケアの広がり	講義
12	緩和ケアにおける倫理的課題	グループワーク
13	臨死期の看護	講義
14	家族のケア 医療スタッフのケア	講義
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：9月～11月

科目名	成人看護学方法論Ⅴ				コード		
領域	成人看護学	対象学年	2年生	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断				出版社	ヌーベルヒロカワ	
	NANDA-I 看護診断 2021-2023					医学書院	
	系統看護学講座 臨床外科看護学総論					医学書院	
	系統看護学講座 臨床外科看護学各論					医学書院	
授業の狙い	全身麻酔で手術を受ける成人期の対象とその家族を理解し、術後合併症予防や異常の早期発見、患者指導に必要な科学的根拠に基づいた看護を学ぶ。その過程において、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス（問題発見能力、問題解決能力、判断能力、応用能力）を養い、周手術期の看護の思考過程を修得する。						
到達目標	成人期の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる 1) 手術や麻酔の侵襲に伴う生体反応を理解できる 2) 必要な情報を判断し、アセスメントに活用できる 3) 周手術期の時期に応じた看護問題を抽出できる 4) 看護問題を解決するための看護方法を選択し、計画立案できる 5) 患者指導を実施・評価し、より良い看護を考えることができる						
評価基準	提出物(レポート、グループ活動等) 100%						

回	講義内容	教授方法等
1	成人看護過程について	講義
2	周手術期の看護過程について	講義
3	情報提供（術前） 病態関連図作成	個人ワーク（課題提出）
4	情報整理・アセスメント	個人ワーク（課題提出）
5	全体関連図・看護診断抽出（術前）	個人ワーク（課題提出）・グループワーク
6	看護計画の立案（術前）	個人ワーク（課題提出）・グループワーク
7	術前オリエンテーション・術前練習	技術演習（実習室）
8	追加情報提供（術後）	個人ワーク
9	情報整理・アセスメント	個人ワーク（課題提出）
10	全体関連図・看護診断抽出（術後）	個人ワーク（課題提出）・グループワーク
11	援助計画の立案（手術直後の観察・離床）	個人ワーク（課題提出）・グループワーク
12	看護計画の立案（術後）：回復期	個人ワーク（課題提出）・グループワーク
13	実施	技術演習（実習室）
14	実施	技術演習（実習室）
15	まとめ	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	老年看護学方法論 I				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	老年看護の役割や特徴を理解するとともに、高齢者の健康でその人らしい生活を支援するために必要な基礎的能力を学ぶ						
到達目標	①高齢者の加齢に伴う変化が生活に及ぼす影響を理解する ②生活機能の中核となるコミュニケーション・食事・身じたく・排泄・活動・休息について専門的知識・技術を理解する ③老年看護学における基本技術を修得する ④状況に応じた看護技術の提供を考えることができる						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物内容						

回	講義内容	教授方法等
1	高齢者総合機能評価 (CGA)	講義
2	高齢者のくらしを支える援助 ①高齢者へのコミュニケーションの援助	講義 グループワーク
3	高齢者のくらしを支える援助 ②高齢者への基本動作の援助	講義 グループワーク
4	高齢者のくらしを支える援助 ③高齢者への転倒・転落予防の援助	講義 グループワーク
5	高齢者のくらしを支える援助 ④高齢者への排泄 (排尿・排便) の援助	講義 グループワーク
6	【演習】高齢者の排泄援助 (トイレ誘導・オムツ交換・陰部洗浄)	演習
7	高齢者のくらしを支える援助 ⑤高齢者への清潔・整容の援助	講義 グループワーク
8	【演習】高齢者の清潔援助 (シャワー浴・清拭・身だしなみ)	演習
9	高齢者のくらしを支える援助 ⑥高齢者への休息・睡眠の援助	講義 グループワーク
10	高齢者のくらしを支える援助 ⑦高齢者への環境整備	講義 グループワーク
11	高齢者のくらしを支える援助 ⑧高齢者への食事の援助	講義 グループワーク
12	【演習】高齢者の食事援助 (姿勢・食事介助)	演習
13	高齢者のくらしを支える援助 ⑨高齢者へのセクシュアリティを考慮した援助	講義 グループワーク
14	高齢者のくらしを支える援助 ⑩高齢者への社会参加を促す援助	講義 グループワーク
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：6月～9月

科目名	老年看護学方法論Ⅱ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	加齢変化との関係が深い老年期に多くみられる症状や、健康障害について知識を深め、高齢者の特徴をふまえた看護を学ぶ						
到達目標	①老年期の特徴的な疾患を説明できる ②諸機能における健康障害の特徴と看護を説明できる ③治療を受ける高齢者の看護が理解できる ④認知機能に障害がある高齢者の看護を理解できる ⑤高齢者の強みを生かした看護過程を展開することができる ⑥終末期の高齢者の特徴と看護を理解できる						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物内容						

回	講義内容	教授方法等
1	治療における老年看護 ①高齢者に対する薬物療法と服薬管理	講義 グループワーク
2	治療における老年看護 ②手術を受ける高齢者への看護と高齢者に対する化学療法・放射線療法	講義 グループワーク
3	高齢者特有の症状と看護 ①めまい 脱水 かゆみ	講義 グループワーク
4	高齢者特有の症状と看護 ②褥瘡 熱中症 痛み	講義 グループワーク
5	高齢者特有の症状と看護 ③呼吸困難・息切れ 食欲不振と体重減少	講義 グループワーク
6	高齢者特有の症状と看護 ④フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア	講義 グループワーク
7	高齢者特有の疾患と看護 ①認知症と脳血管障害	講義 グループワーク
8	高齢者特有の疾患と看護 ②循環器系疾患	講義 グループワーク
9	高齢者特有の疾患と看護 ③呼吸器・消化器系疾患	講義 グループワーク
10	高齢者特有の疾患と看護 ④運動器系疾患	講義 グループワーク
11	高齢者特有の疾患と看護 ⑤感覚器系疾患	講義 グループワーク
12	高齢者の終末期における看護	講義 グループワーク
13	健康障害をもつ高齢者の家族への看護	講義 グループワーク
14	高齢者特有のリスクマネジメント 高齢者における医療安全と災害看護	講義 グループワーク
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：10月～11月

科目名	老年看護学方法論Ⅲ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	健康障害のある高齢者に対する看護実践に必要な能力を養うことをねらいとする。ここでは高齢者に多くみられる疾患や症状、障害を取り上げ、健康課題を解決するための能力を養う						
到達目標	①高齢者の特徴を捉えた目標志向型思考が理解できる ②高齢者の生活機能、病態を関連させた看護過程が理解できる ③看護的思考と看護援助行動を考えることができる						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物内容						

回	講義内容	教授方法等
1	看護過程展開の実際 ①事例の概要と入院時のアセスメント	講義 グループワーク
2	看護過程展開の実際 ②看護上の問題	講義 グループワーク
3	看護過程展開の実際 ③看護目標の設定	講義 グループワーク
4	看護過程展開の実際 ④看護の実際	講義 グループワーク
5	看護過程展開の実際 ⑤評価	講義 グループワーク
6	事例による看護過程の展開 事例①肺炎で入院した認知症治療患者の看護 事例②大腿骨頸部骨折で入院した高齢患者の看護	講義 グループワーク
7		講義 グループワーク
8		

科目名	小児看護学方法論 I			コード			
領域	小児看護学	対象学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論			出版社	医学書院		
	専門分野Ⅱ 小児看護学各論				医学書院		
	写真でわかる小児看護技術				インターメディカ		
授業の狙い	小児の成長発達とそれを支える養護・環境について理解する。さらに健康を障害された小児とその家族への看護と小児に必要な技術を学ぶ。						
到達目標	①小児の成長発達段階と理論について説明できる。 ②小児の成長発達を支える養護・環境について説明できる ③健康を障害された子どもと家族の特徴と看護について説明できる ④小児に必要な技術に伴う観察項目と留意点が述べられる						
評価基準	終講試験90% レポート10%						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論 I ガイダンス（講義の進め方・評価方法） 小児の成長・発達 発達の評価	講義 ワークシート
2	小児の成長発達と養護＜1＞ 乳児期	講義 ワークシート
3	小児の成長発達と養護＜2＞ 幼児期	講義 ワークシート
4		
5	小児の成長発達と養護＜3＞ 学童期 思春期	講義 ワークシート
6	小児にとってのあそび	講義 GW
7	小児の栄養	講義
8	小児の健康障害と家族＜1＞ 病気・障害が子供と家族に与える影響 健康問題が子供と家族に与える影響	講義 GW
9	小児の健康障害と家族＜2＞ 発達段階別の入院による影響と看護	小テスト① 講義 GW
10		
11	小児の健康障害と家族＜3＞ 障害のある子どもと家族への看護（医療的ケア児）	講義 ワークシート
12	小児の健康障害と家族＜4＞ 災害時の子どもと家族への看護	講義 ワークシート
13	小児に特有の技術	小テスト②
14	小児特有の技術	演習 レポート①
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：7月～10月

科目名	小児看護学方法論Ⅱ				コード		
領域	小児看護学	対象学年	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
使用教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学各論				出版社	医学書院	
	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論					医学書院	
授業の狙い	小児の疾患の特徴と看護を学ぶ						
到達目標	①小児の疾患の特徴（好発年齢、原因、病態、検査、治療、処置）について説明できる ②それぞれの疾患に応じた看護について説明できる						
評価基準	終講試験（80%） GW参加状況・提出物（20%）						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論Ⅱガイダンス 症状別看護<1> 発熱 発疹 発熱・発疹を呈する感染症	講義 対面
2	症状別看護<2> 下痢 脱水 嘔吐 痛み	講義 対面
3	急性期にある子どもと家族の看護 疾患別看護<1> 呼吸器疾患：肺炎 細気管支炎 クループ	講義 対面
4	周手術期にある子どもと家族の看護 疾患別看護<2> 消化器疾患：腸重積 イレウス ヒルシスブルグ病	講義 対面
5	慢性期にある子どもと家族の看護 疾患別看護<3> 腎・泌尿器疾患：ネフローゼ症候群	講義 対面
6	疾患別看護<4> 内分泌疾患：1型糖尿病 疾患別看護<5> アレルギー性疾患：気管支喘息 食物アレルギー 疾患別看護<6> 循環器疾患：川崎病	GW① 対面
7	疾患別看護<4>～<6>	GW② 対面
8	疾患別看護<4>～<6>	GW・発表 対面
9	疾患別看護<4>～<6>	講義 対面
10	特殊な状況にある小児の看護 活動制限：安静 拒薬 食事制限	講義 対面
11	疾患別看護<7> 循環器疾患：心室・心房中隔欠損症 ファロー四徴症 疾患別看護<8> 耳鼻咽喉疾患：咽頭扁桃増殖症 疾患別看護<9> 運動器疾患：骨折	講義 対面
12	疾患別看護<10> 神経系疾患：てんかん 脳性まひ	講義 対面
13	疾患別看護<11> 悪性新生物：急性リンパ性白血病 脳腫瘍	講義 対面
14	終末期にある子どもと家族の看護	講義 対面
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：11月～1月

科目名	小児看護学方法論Ⅲ				コード		
領域	小児看護学	対象学年	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
使用教科書	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論				出版社	医学書院	
	専門分野Ⅱ 小児看護学各論						
授業の狙い	健康を障害され入院する小児とその家族の特徴をふまえた看護過程の展開を理解する						
到達目標	①小児のクラスター分類に沿って情報整理ができる。 ②子どもの成長発達段階が、子どもの健康回復に与える影響を考えることができる ③家族の健康に対する考え方や管理方法が子供の健康回復に与える影響を考えることができる。 ④健康障害が小児の成長発達及び家族に与える影響を考えることができる。 ⑤子どもの発達段階と安全を考慮した看護計画を考えることができる。 ⑥健康を障害された子どもの家族への看護を考えることができる。						
評価基準	看護過程記録100%						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論Ⅲガイダンス 事例紹介 Tr:フェースシート	対面 グループワーク
2	<健康障害・健康段階> Tr:クラスター 1 展開	対面 グループワーク
3	<成長・発達段階> Tr:クラスター2展開	対面 グループワーク
4	<家族関係・家族状況> Tr:クラスター 3 展開	対面 グループワーク
5	問題関連図 優先順位 Tr:記録用紙No3,No4展開	対面 グループワーク
6	看護計画立案 Tr:記録用紙No5	対面 グループワーク
7	援助計画立案 Tr:記録用紙No8	対面 グループワーク
8	援助計画発表 まとめ 最終提出について	対面

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：4月～6月

科目名	母性看護学方法論 I				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論				出版社	医学書院	
授業の狙い	母性看護学概論で学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児に焦点を当てる。正常な経過と、子どもを産み育てる過程を中心に、母子およびその家族に対する援助を学ぶ。						
到達目標	正常な経過を辿る妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族に対する看護実践を行うための基礎的知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	遺伝相談 不妊治療と看護	講義
2	妊娠期の身体的特性	講義
3	妊娠期の心理・社会的特性	講義
4	妊婦と胎児のアセスメント	講義
5	妊婦と家族の看護	講義
6	分娩の要素	講義
7	分娩の経過	講義
8	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	講義
9	分娩期の援助	講義
10	産褥経過	講義
11	褥婦のアセスメント	講義
12	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護	講義
13	新生児の生理	講義
14	新生児のアセスメント 新生児の看護	講義
15	まとめ・終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：6月～10月

科目名	母性看護学方法論Ⅱ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論				出版社	医学書院	
						インターメディカ	
授業の狙い	母性看護学方法論Ⅰで学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児の経過の異常とその看護を学ぶ。						
到達目標	ハイリスクな状態にある母子への看護を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	妊娠期の異常と看護①	講義
2	妊娠期の異常と看護②	講義
3	分娩期の異常と看護①	講義
4	分娩期の異常と看護②	講義
5	産褥期の異常と看護①	講義
6	産褥期の異常と看護②	講義
7	新生児の異常と看護	講義
8	まとめ・終講試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：11月～1月

科目名	母性看護学方法論Ⅲ				コード		
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論					医学書院	
	写真でわかる母性看護技術アドバンス					インターメディカ	
授業の狙い	母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児の看護の実践に焦点を当てる。事例から看護過程の展開と母子およびその家族に対する援助の実践を学ぶ。						
到達目標	母性看護に必要な看護過程の理解と、事例に応じた看護の実践ができる。						
評価基準	課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	母性看護過程の特徴 妊娠期の看護過程の特徴 妊婦の事例	講義 GW
2	妊婦の看護の実践と評価①	妊婦体験 妊娠期の看護技術
3	妊婦の看護の実践と評価②	妊婦の健康相談 ロールプレイ
4	妊婦の看護の実践と評価③	妊婦の健康相談 ロールプレイ
5	分娩期の看護過程の特徴 産婦の事例	講義 GW
6	分娩期の看護①	分娩シミュレーション
7	分娩期の看護②	分娩シミュレーション
8	産褥・新生児の看護過程の特徴 産婦・新生児の情報収集	講義 GW
9	産婦・新生児の情報分析・解釈・診断	講義 GW
10	産婦・新生児の看護計画①	講義 GW
11	産婦・新生児の看護計画②	講義 GW
12	産婦・新生児の看護の実践と評価①	事例に応じた技術演習
13	産婦・新生児の看護の実践と評価②	事例に応じた技術演習
14	異常経過をたどる対象者の看護過程	講義
15	まとめ	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：5月～6月

科目名	精神看護学方法論 I				コード		
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統別看護学講座 精神看護学の基本①				出版社	医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
授業の狙い	本科目では、精神疾患や精神障がい者の症状、精神障害の種類、特徴、その原因や経過および診断と治療・療法について理解する。精神疾患や精神障がい者が対象のこころや生活に及ぼす影響と看護実践および看護の役割を理解することに活かす。授業方法は、講義を主として展開する。						
到達目標	1 精神障がいとは何か理解する。 2 主要な精神疾患の特徴とその症状を理解する。 3 精神障害を持つ対象の苦しみや困難を理解することができる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	1) 精神疾患とは何か 2) 統合失調症の概要、症状、診断基準、疫学について	講義
2	統合失調症の分類、統合失調症近縁疾患、原因、経過、予後、治療について	講義
3	1) 気分障害とは何か 2) うつ病の概要・疫学、症状・診断、病前性格・原因、経過、治療について	講義
4	双極性障害の概要・疫学、症状、原因、経過、治療について	講義
5	1) 不安障害について 2) 恐怖症性不安障害、その他の不安障害、強迫性障害について理解する	講義
6	重度ストレス反応及び適応障害（ASD、PTSD、適応障害）について	講義
7	1) 解離とは何か 2) 身体表現性障害について	講義
8	1) 摂食障害について 2) 睡眠障害について	講義
9	特定のパーソナリティー障害について（DSMによるカテゴリー）	講義
10	1) 習慣及び衝動の障害について 2) 性同一性障害（性別違和）について 3) 性嗜好の障害について	講義
11	1) 物質関連障害の概要、関与する物質、臨床像、依存について 2) 依存について物質により身体依存・精神依存、耐性の出現について	講義
12	1) アルコール関連問題について 2) 急性アルコール中毒、酪酊に伴う異常、アルコール精神病、アルコール依存症について	講義
13	1) 知的障害、特異的発達障害について 2) 広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）について 3) 多動性障害について	講義
14	1) 行為障害について理解する 2) 小児期に特異的に発症する情緒障害について理解する 3) 選択性緘黙・チック障害について理解する	講義
15	終講試験	

科目名	精神看護学方法論Ⅱ				コード		
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統別看護学講座 精神看護学の展開②				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
授業の狙い	<p>本科目では、様々な精神症状に対しての看護を学習するとともに、精神障がい者の持つ疾患からくる生活のしづらさに焦点をあて、そこで必要な看護を学ぶ。また精神医療における治療について知ることにより、精神障がいの治療に対しての看護師の役割を学ぶ。また社会復帰に向けての看護師の役割を学ぶ。さらに治療場面での患者—看護師関係の持ち方、治療的関わりを形成するための基盤について学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な精神症状を持つ対象に対しての看護を理解することができる。 2 代表的な精神疾患を持つ対象の生活のしづらさを理解し、その対象に対する看護を理解することができる。 3 精神科における薬物療法と、薬物療法を受ける患者に対する看護を理解することができる。 4 心理社会的治療を学び、治療を理解することができる。 5 対象の社会復帰に向けた看護を理解することができる。 						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	精神障害を持つ患者に対する看護の概要を学ぶ	講義
2	不安を持つ対象に対する看護について学ぶ	講義
3	妄想、幻覚、攻撃性を持つ対象への看護を学ぶ	講義
4	自傷・自殺、自閉傾向にある対象への看護を学ぶ	講義
5	強迫、依存状態にある対象への看護を学ぶ	講義
6	操作を行う対象、無気力状態にある対象への看護を学ぶ	講義
7	統合失調症を持つ対象への看護を学ぶ	講義
8	気分障害を持つ対象への看護を学ぶ	講義
9	パニック障害を持つ対象、強迫性障害を持つ対象への看護を学ぶ	講義
10	境界性パーソナリティー障害を持つ対象、摂食障害を持つ対象への看護を学ぶ	講義
11	アルコール依存症を持つ対象への看護を学ぶ	講義
12	精神科における薬物療法、薬物療法を受ける対象への看護を学ぶ	講義
13	心理社会的治療（精神療法、リハビリテーション）について学ぶ	講義
14	対象の社会復帰に向けた看護を学ぶ	講義
15	終講試験	

東京墨田看護専門学校 シラバス

開講期間：10月～1月

科目名	精神看護学方法論Ⅲ				コード		
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開				出版社	医歯薬出版株式会社	
	系統別看護学講座 精神看護学の基礎①					医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
授業の狙い	精神看護学方法論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を活用して事例を用いて講義だけでなく、学生自身が看護過程を展開しながら患者の状態をアセスメントし、看護援助を計画・立案できる能力を身につける。 精神看護学のまとめとして、精神看護の動向と課題と関心のあるところの問題について自分自身の考えをまとめ、精神看護学への関心を深める。						
到達目標	1. 事例を通して統合失調症の経過に応じた看護援助について理解できる。 2. 事例の症状アセスメントができる。 3. セルフケア理論に基づいた看護過程の理解を深められる。						
評価基準	出席状況、提出物、グループワーク発表						

回	講義内容	教授方法等
1	・プロセスレコード 1. セルフケアの定義	講義 個人ワーク
2	2. セルフケアのサブ理論 3. 普遍的セルフケア要素 4. セルフケアレベルの査定	講義
3	事例紹介 フェイスシート、病態関連図	グループワーク
4	セルフケアレベルの査定	グループワーク
5	セルフケアレベルの査定	グループワーク
6	全体関連図、看護の方向性、短期目標、長期目標	グループワーク
7	看護計画立案	グループワーク
8	精神看護学看護過程の発表会	発表会 講義